

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-132	A-133	16-038
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p>The influences of parental divorce and maternal-versus-paternal alcohol abuse on offspring lifetime suicide attempt.</p> <p>子の生涯の自殺企図に対する親の離婚とアルコール中毒の影響</p>		
執筆者		
Thompson RG Jr, Alonzo D, Hu MC, Hasin DS.		
掲載誌		
Drug Alcohol Rev. 2016 Aug 19. doi: 10.1111/dar.12441. [Epub ahead of print]		
キーワード		PMID
自殺未遂、飲酒障害、母親の飲酒、父親の飲酒、親の飲酒、親の離婚		27538533
要 旨		
<p>目的： 両親の離婚と飲酒を調査した先行研究では、親の離婚とアルコール中毒が子供の生涯における自殺企図の可能性を独立して増加させるということを指摘している。しかしながら、それらを同時に経験した時は親のアルコール中毒だけ自殺企図の確率が有意に増加していた。成人まで生存した子供の生涯の自殺企図の危険に対し、母親と父親の飲酒の影響における違いがあるかはまだ知られていない。本研究は、成人した子供の生涯における自殺企図に対する親の離婚と父母どちらかにおける飲酒問題歴の影響を調査した。</p> <p>方法： 対象は、施設に收容されていない 18 歳以上 43,093 名の一般人を直接面談した米国を代表する全国的調査から 2001-2002 年のアルコールと関連した健康状態のための国民疫学研究 (NESARC) に参加した者。子供の生涯における自殺企図に対する幼年期あるいは青年期の両親の離婚と父母それぞれの飲酒問題歴の影響を、人口統計学的要因と親の精神障害や問題行動の交互作用を考慮した多変量調整ロジスティック回帰解析モデルを用いて推定した。</p> <p>結果： 全対象者の 2.4% (1,073 名) が自殺企図を報告した。16.0%が両親の離婚を経験し、21.3%が親のアルコール中毒歴を報告し、6.0%がそのどちらも報告した。自殺企図を報告した者のうち、25.4% (273 名) が両親の離婚を、46.0% (494 名) が親のアルコール中毒を報告した。その中でも母の飲酒問題だけは 5.8% (62 名)、父だけは 29.1% (312 名) で、両親ともは 11.1% (120 名) であった。母もしくは父の飲酒問題は、両親の離婚とは独立して、子供の生涯における自殺企図の可能性に影響しており、飲酒問題者が両親のいずれであっても同程度であった。親の離婚と父母どちらかの飲酒問題を経験することは自殺未遂の可能性をほとんど 2 倍にした。離婚と父母どちらも飲酒問題歴がある場合、その可能性が 3 倍になった。</p> <p>結論： 幼年期あるいは青年期に両親の離婚を経験した者とアルコール中毒の親を持つ者は自殺企図への高い危険状態にある。これらの問題点は、生涯の自殺企図の危険がある者たちをより効率的に特定し、そのような危険を減少させるための介入を早期に実行するため、ルーチン評価項目として定義すべきである。</p>		